

# 患者の皆様へ

2020年10月23日 消化器内科

現在、消化器内科では、「保存血清検体を用いた急性肝不全の病態解析」に関する研究を行っています。今後の診断や治療に役立てることを目的に、この研究では、令和2年10月23日までの期間の肝疾患患者さんの診療情報や血液検体などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. **研究課題名**：「保存血清検体を用いた急性肝不全の病態解析」
2. **研究の意義・目的**：急性肝炎は様々な原因を背景とした疾患であり、その中でも高度の肝機能障害を来した病態を急性肝不全と定義され、ひとたび昏睡症状が出現すればその予後は極めて不良な疾患です。

治療としては肝移植を視野に入れながら、成因に対する治療、人工肝補助療法とともに合併症や多臓器不全対策が中心となりますが、その予後は一行に向上しておらず、新たな病態の解明とそれに対する治療が必要であると考えられます。

そのような背景の中で本研究では急性肝不全症例に加えて急性肝炎症例に関して、血液検体を用い、RNA レベルまたは蛋白レベルでの解析を試み、急性肝不全における病態解明と共に新規バイオマーカーなどの解明することを目的とし、最終的には、新しい診断法や効果予測法を開発することが目標です。

3. **研究の方法**：令和2年10月23日までの期間に採取された急性肝炎患者さんの血液検体を使用し、血清 RNA や蛋白質発現量を測定します。年齢、性別、人種、身長、体重、飲酒量、合併症、既往歴、内服薬、治療方法、生存期間、死因、肝炎の原因、肝移植の有無などの診療情報や画像・病理組織の情報と比較検討します。研究期間は令和2年の本研究承認後から令和4年3月31日までです。

4. **個人情報の取り扱いについて**：本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表の際には、患者さんの氏名などは一切公表致しません。データ等は、千葉大学大学院医学研究院消化器内科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. **研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について**：ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

**研究実施機関**：千葉大学医学部附属病院消化器内科

**本件のお問合せ先**：医学部附属病院消化器内科 医師 加藤直也、近藤孝行

043(222)7171 内線 5241 (消化器内科医局)